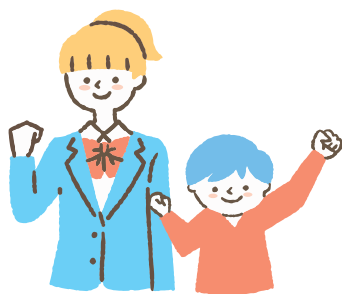


# 山形県 こども会議 2025

YAMAGATA KODOMO MEETING

報告書

- 今年度(令和7年度)の「山形県子ども会議」は、「『県民まんなか』みらい共創カフェ」の一環として開催しました。
- 9月に「山形県子ども会議」を開催し、10月には、子ども会議参加者の代表が知事と意見交換を行い、住み続けたい山形になるための意見やアイデアなどを伝えました。
- 子ども会議でいただいた意見は、今後の山形県の取組みの参考とするほか、産業・教育・金融・労働・行政など各分野の方々と共有しました。



子ども会議でみなさんからもらった意見

似ている意見をまとめる

意見を取り込んで進める山形県の取組みを事業ごとに分類

来年度、山形県が取り組む事業の内容

実際の取組みにはなっていないが県が考えていること

『県民まんなか』みらい共創カフェ

明るい山形県の未来を県民の皆さんとともに考え、ともに創っていくため、「明るい山形県の未来」をテーマに、県民の皆さんと知事が直接お話しをする事業です。

# 1 「出会いと繋がりがあるまち」に住み続けたい!



## こども会議の意見

- 以前調べたことで、「なぜUターンするのか」の理由の一つに「ここにはこんな人がいるから」といった人との繋がりがあるからというものがあった。住み続ける上で繋がりが大事なのではないか。
  - どんな場所でも人との出会いはある。その出会いが一過性で終わるものでなく、繋がりをもつことが必要。
  - 若者は都会への憧れを持っている。山形と都会のこどもが交流できる場があればいい。
- 
- 地域でのコミュニティづくり、イベント、課外活動等、人との出会いや繋がりを実感することが必要。
  - 若者と子育て世代が協力し合えること、互いが安心して暮らせるような環境を整えることが必要。

## みなさんの意見を取り込んで進める山形県の取組み

### 関係人口誘導促進事業

- 関係人口(地域で継続して様々な形でかかわる人々)の創出拡大、また将来の山形県への移住者を増やすため、県と市町村が連携して取り組む体制をつくります。
- AI(人工知能)などのデジタル技術を活用して、関係人口や移住に関する情報発信等に取り組みます。

### やまがた若者地域づくり参加推進事業

- 県内の若者たちが地域活動に関して気軽に相談できる窓口として「若者支援コンシェルジュ」を設置し、若者の地域活動を支援します。また、県内の若者の活躍に関する情報発信を行います。
- 若者グループが取り組む地域課題の解決や地域おこし活動への支援を行います。

## 2 子育てに理解のある山形県であれば住み続けたい!



### こども会議の意見

- 山形県の人口が100万人を下回るなど、特に女性が山形から出ていく割合が高いのは、子育てする方が働きにくいと感じているからではないか?男女がともに暮らしやすい社会づくりが必要。

- 女性の就業率が高いが、家事や育児の負担はまだ女性に偏りがち。
- 男性も育児に参加しやすい仕組みや意識を広めることが必要。
- 子育てについて、他人ごとではなく「自分ごと」として社会全体が変わる必要がある。

### みなさんの意見を取り込んで進める山形県の取り組み

#### YAMAGATA biz ウーマン応援事業

- 再就職や移住など、県内で働きたい女性の就職活動を総合的にサポートします。
- 企業における女性活躍を促進するためのセミナーの開催や、職業に関する相談の専門家であるキャリアコンサルタントによる支援を行います。
- 経営者と学生とのワークショップ等を通して、魅力ある職場環境の促進を図ります。

#### 女性の賃金向上推進事業

- 女性の賃金を向上させるため、企業が、正社員ではない女性を正社員にした場合、支援金を支給する取り組みを行います。

#### 子育て県民運動推進事業

- 県が運営する「やまがた子育て応援サイト」で、妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援に関する情報発信を行います。
- 新婚世帯や子育て世帯を対象とした共家事(ともかじ)・共育(ともいく)を促進するための取り組みを行います。
- 山形で子育てをする家庭を社会全体で応援するため、「やまがた子育て応援パスポート」事業や「地域みんな子育て応援団」の活動に取り組みます。
- シニア層(高齢者)の他孫(たまご)育てによる地域で子育てを支える環境づくりに取り組みます。

## 2 子育てに理解のある山形県であれば住み続けたい!



### こども会議の意見

#### 育休を取りやすい(子育てに理解がある)職場環境づくりが必要

- ◎ 「子育ては当たり前」文化づくり
- 強制ではない、自主的に社員が参加する会社のイベントや研修をしたらいいのではないか?
- 育休は取らない方が大変!という雰囲気をつくる、考え方を変えていく。
- 「育休についてのサポート研修を受けた」ことが分かる制度。
- 育休を取ったら経過報告を会社にする(ただ育休を取っただけにならないように)。
- 育休について話す機会をつくる。同じ思いの人が多くいることが分かると安心するのでは?
- 育休中でも息抜きにオンラインで仕事ができればいい。
- 男性向けの子育て育休講話を実施する。
- 男性からの理解、男性同士の理解も大事。

#### ◎ 子育て応援ポイント制度の創設

- ポイントにすると助け合いというよりも福利厚生目当てになってしまい、目的と異なってしまうのではないか。  
⇒ だれがポイントもらったかは偉い人だけが分かるようにする(ボーナスに反映)
- ポイントをもらえるのではなく、成績が上がるほうがいい。
- ポイント制度は助け合う雰囲気が大事。

### みなさんの意見を取り込んで進める山形県の取り組み

#### 企業等におけるワーク・ライフ・バランス推進事業

- ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)や女性活躍の推進に取り組んでいる企業等を「やまがたスマイル企業」に認定し、誰もがいきいきと働き、幸せに暮らし続けられる山形県に向けて取り組みます。
- 「やまがたイクボス同盟」による企業経営者層を対象とした意識改革のためのトップセミナーを開催します。

### 実際の取り組みにはなっていないが県が考えていること

- ポイント制度ではありませんが、『やまがた子育て応援パスポート事業』を実施する等、企業や団体等から支援をいただき、社会全体で子育てを応援する気運を醸成していきます。

## 2 子育てに理解のある山形県であれば住み続けたい!



### こども会議の意見

- ◎ こども食堂
- ボランティアに参加したくても人数が足りていた。もっと情報を発信してくれたらボランティアが足りない食堂が分かる。
- 県内のこども食堂のプラットフォームなどがあるといい。
- こども食堂の数が少ないと思う。もっと数を増やすべき。
- ひとり親家庭への生活支援を充実させる。

### みなさんの意見を取り込んで進める山形県の取組み

#### ひとり親家庭・こどもの貧困対策総合推進事業

- こどもたちが安全に安心して過ごすことができるよう、地域の様々な方々とつながり多様な学びや体験ができるこどもの居場所づくりを推進します。
- 「こどもの居場所づくりサポートセンター」を設置し、こども食堂等こどもの居場所づくりに関する相談支援や情報発信を行います。
- こどもの居場所づくりに新たに取り組む団体等への支援や運営に要する経費の助成を行います。
- 物価高騰等による影響を受けているこども食堂等へ県産米の提供を行います。



# 3 一度県外に出ても戻ってきたいと思える、 県外で得た力を発揮できる山形がいい!



## こども会議の意見

- どんな仕事があるか、募集要項やポスター以外でも知ることができればいい。ショート動画やSNSを通して会社の雰囲気を知りたい。
- 小中高校でボランティアや職場体験、会社見学の機会を増やしてはどうか。
- 県外に出て得た力や学びを山形に戻って活かしたいと思えるためには、進学・就職の前に山形では何ができてどのように自分の力を活かせるかを知っておくことが必要。勉強がメインの進学校こそ、そうした機会が必要。
- 「若者が山形から出てしまう」ということをネガティブに考えるのではなく、そうした人が戻りやすいように地元で働ける仕事や活動の場を増やすことが必要。
- 自分の学びたいこと・やりたいことのために、地元を離れるのは大事なことでないことだと思う。

## みなさんの意見を取り込んで進める山形県の取り組み

### 県内定着・回帰促進事業

- 県が運営する就職支援ポータルサイト「山形県就職情報サイト」において、県内企業の情報を提供し、県内企業の認知度向上と県内企業への就職を促進します。
- 学生の県内企業への就職を促進するため、学生を対象とした合同企業セミナーや、就職協定大学等での学生と県内企業の若手社員の懇談会を開催します。

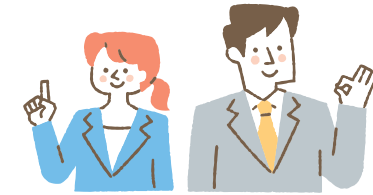
### 若年者Uターン人材確保対策事業

- 若者等の大都市圏からの移住・転職(Uターン)を促進するため、首都圏を中心とした県外の若者等に対する就職相談、情報提供を実施します。
- 就職活動を行う学生等を対象としたメタバース空間を活用した合同企業説明会を実施します。

### 次世代ものづくり人材育成促進事業

- 次世代の産業人材を確保するため、小中学生に向けた県内ものづくり企業を紹介するガイドブックの作成・配布を行い、県内企業への興味と理解を促進します。
- 管内小中学生を対象とした地域内のものづくり企業等による集合型説明など、次世代の産業人材の確保に取り組む市町村等を支援します。

# 3 一度県外に出ても戻ってきたいと思える、 県外で得た力を発揮できる山形がいい!



## こども会議の意見

「自分が学んだことやスキルを山形で活かせる場所があるといい」

◎魅力発信

- 山形には誇れるものがたくさんある。それを県内の人にも広める。  
ex.)山形大学の有機ELの活用・魅力をもっと発信

- 観光スポットやまだ知られていないところをSNSで発信する。  
SNSで山形を有名にして人を集めるために、自然を残し山形の有名なものを知らせる。

- 山形の魅力を伝えることが必要。食べ物がおいしいこと、温泉が多いこと、空気がおいしいことが魅力。山形を一周回るようなツアーをしたりしてはどうか。

## みなさんの意見を取り込んで進める山形県の取組み

### WEBを活用した県産品振興事業

- 山形県産品の情報を提供するポータルサイト「いいもの山形」のPR冊子等を活用し、県産品の魅力を広く発信します。

### やまがたの誇れる景観魅力発信事業

- 市町村と連携し、小中学生を対象とした景観出前授業を開催します。
- 地域住民が地域の魅力ある景観を再認識するためのまちあるき「景観探検まちあるき」を実施します。
- 美しくおいしいのある県土づくりをすすめるための景観づくりハンドブックを作成します。

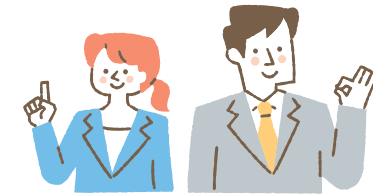
### 観光誘客総合推進事業

- 地域に根差した山形県の祭りの魅力発信を行うとともに、非日常を体験する新たな観光資源として祭りを活用する取組みを推進します。

### 山形県魅力発信強化事業

- 山形県へのさらなる誘客と交流人口の拡大に向けて、本県ゆかりの発信力のある方々を起用したプロモーションを展開します。

# 3 一度県外に出ても戻ってきたいと思える、 県外で得た力を発揮できる山形がいい!



## こども会議の意見

「自分が学んだことやスキルを山形で活かせる場所があるといい」

◎ハード面

- サービス(お店など)をたくさん作る。
- 自分で作ったものとかを販売できる場所。(山形で売ったものが有名になる⇒山形に住みたい)

◎イベント参加

- 高校生が山形で参加できるイベントや施設があるといい。
- イベントに参加できる機会があるといい(学校単位での参加など)。

◎学びや起業に対する支援

- 山形で学べるスキルを増やした方がいい。
- 起業するためのお金や機材等を導入するための支援を民間企業等と連携する。

## みなさんの意見を取り込んで進める山形県の取組み

### 創業支援事業

- お店などを作ることはできませんが、新しく会社やビジネスを立ち上げたいと考えている方の創業支援などに取り組んでいます。

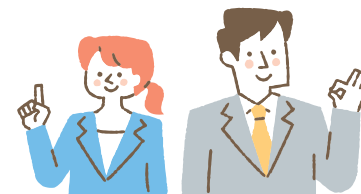
### やまがた若者地域づくり参加推進事業

- 県内の若者たちが地域活動に関して気軽に相談できる窓口として「若者支援コンシェルジュ」を設置し、若者の地域活動を支援します。また、県内の若者の活躍に関する情報発信を行います。
- 若者グループが取り組む地域課題の解決や地域おこし活動への支援を行います。

### 創業支援事業

- 起業に関心のある方に対する新規創業のための相談窓口である「スタートアップステーション・ジョージ山形」の運営を支援します。
- クリエイティブ産業の創出に向けて、県内の大学と連携し、クリエイティブ人材の育成や仕事内容・魅力紹介の場の提供を行うほか、分野別制作体験会の実施、さらには本県にゆかりのある漫画やアニメ等のコンテンツ利活用の促進に取り組めます。

### 3 一度県外に出ても戻ってきたいと思える、 県外で得た力を発揮できる山形がいい！



#### こども会議の意見

◎その他

- 地元の人の温かさや、受け入れる環境があると戻ってもいいかなと思う。
- こどもたちが意見を交換する場所が少ない。
- 「みんなが親切でみんなが笑顔の山形」であれば住み続けたい。

#### 実際の実施にはなっていないが県が考えていること

- 現在ある多種多様な居場所が、地域における新たな交流やつながりを得られる場として機能している場合もあることから、こども・若者の居場所づくりなどを引き続き支援していきます。



# 4 自然が豊かで県全体が明るい山形県がいい！



## こども会議の意見

- 山形県の自然を大事に守っていきけるようにしていくことが必要。
- 自分がかもし山形から出て何年後かに戻ってきても、畑や田んぼがある地元の景色が変わらないでいてくれたらうれしい。

- 山形を支える農業の現状をもっと知った方が良い。農業が始めやすい支援をすることで、農業をする人が増える。

## みなさんの意見を取り込んで進める山形県の取り組み

### 山形の山魅力満点(マウンテン)プロジェクト事業

- 蔵王の樹氷復活に向けて、樹氷を形成するオオシラビソ林の再生活動の拡大に向けた計画策定と移植活動を実施します。
- デジタル技術を活用した「やまがた百名山」の魅力発信に取り組みます。
- 山岳環境保全活動の担い手を確保するため、大学生等の登山者と山岳関係団体との保全活動を通じた交流の場を設けます。
- 日本語以外の言語にも対応したAR動画(スマートフォンやタブレットのカメラで特定の画像や風景を映すと再生される、拡張現実(AR)技術を使って視聴する動画)による蔵王の魅力発信に取り組みます。

### 新規就農総合支援事業

- 新たに農業を始める方(新規就農者)を支援するため、農業を始めるための研修や経営に係る資金を交付するほか、農業法人等に就職して農業を行う雇用就農の促進に向けた資金の交付などに取り組みます。

### 未来を育む農業担い手育成支援事業

- 地域農業を支える多様な担い手の確保・育成のため、市町村と連携し、組織的な取組みや新規就農者の経営発展等の取組み、多様な人材の活躍促進の取組みなどを支援します。

## 5 その他の意見



### こども会議の意見

- 二拠点生活(デュアルライフ)地方の人が都市部に拠点を持つことへの支援。地方の人が都市部にも拠点をもち、都市部の人の地方拠点にしやすい山形県にすることが良いのではないか。

### 「学ぶ場、働くところ、遊ぶところがあれば山形に暮らし続けられるのでは」

#### ◎学ぶ場所について

- 勉強できる場所。遊学館に行くけど混んでいると場所がなくなる。静かで勉強できるところがほしい。
- 作業療法士の資格取得、獣医の勉強ができないから県外へ。  
⇒オンラインで座学をして、実習はまとめてやるとかできれば選択肢が広がる。

#### ◎遊ぶところ、インフラ関連について

- 交通の便(電車・バス)がよくない。1本逃すと1時間待ち…

### 実際の実施にはなっていないが県が考えていること

- 地方の人が都市部に拠点を持つことへの支援はありませんが、ふるさと山形移住・定住推進センター「くらすべ山形」において、移住に関する様々な相談に対応しています。

- 県立図書館(遊学館)をはじめ、各市町村の図書館や公民館などの公共施設において、学生や一般の方々静かに学習や仕事等ができるように施設の一部を開放するなど、県民の皆さんの学びの確保と利便性の向上を図っていきます。

### みなさんの意見を取り込んで進める山形県の取り組み

#### 地域交通総合対策事業

- 県民の生活交通手段であるバス路線や車両の維持、および地域公共交通の利便性向上や経営改善を図るため、事業者への支援を行います。
- 持続可能な地域公共交通ネットワークの構築に向けた取り組みを推進します。

#### 鉄道ネットワーク機能強化事業

- 県内鉄道の利便性向上に向けて、各種団体と連携してJR東日本や国土交通省に対する要望活動を推進します。